

生まれ変わる相馬港の報道関係者向け見学会を開催

～相馬港の復旧・復興と道路整備によるストック効果の発現～

小名浜港湾事務所では、平成 29 年 12 月 10 日（日）石油資源開発(株)（以下、「JAPEX」）主催の相馬 LNG 基地第 1 船入港式典に併せて、災害復旧さらには民間投資の好循環が進んでいる相馬港の『今』を知って頂くことを目的に、報道関係者向け見学会を開催します。

相馬港では、東日本大震災により甚大な被害を受けた沖防波堤（全長：2,730m）の復旧事業のほか、復興に向けた港湾整備事業も着々と進められています。

また、常磐自動車道や相馬福島道路の整備等により、相馬港背後の交通網も充実してきました。

こうした動きから、相馬港への民間投資も相次いでおり、12 月 10 日には、JAPEX が新たに建設した相馬 LNG 基地への LNG 船の第 1 船入港を記念した式典が行われることとなりました。

今回の LNG 船の入港は、JAPEX による基地建設の他、国土交通省による前面水域の浚渫や福島県による土地の埋立など、官民一体となった取組みの結果、実現したものです。

災害復旧さらには民間投資の好循環が進んでいる相馬港の「今」をさらに知って頂くため、今回の式典開催にあわせ、船上及び復旧が進む沖防波堤上から相馬港をご覧いただく報道関係者向けの見学会を開催致します。

【開催概要】

開催日時：平成 29 年 12 月 10 日（日） 9:30～10:15 14:15～15:00
集合場所：相馬港 1 号ふ頭内（別添資料 1 参照）
内容：相馬港及び LNG 船の海上視察（船上及び沖防波堤上より）
定員：、各 12 名（応募者多数の場合は申込順といたします。）
申込方法：申込書に必要事項ご記入の上、FAX 又は E-mail にて、
12 月 8 日（金）正午までに問合せ先へご連絡ください。

《別添資料》

- 別添資料 1：相馬港報道関係者向け見学会 集合・解散場所及び行程
- 別添資料 2：相馬港報道関係者向け見学会 申込書・留意事項
- 別添資料 3：東日本大震災以降の相馬港を取り巻く主な動き
- 別添資料 4：相馬港災害復旧、整備状況
- 別添資料 5：相馬港進出企業概要

発表記者會 福島県政記者クラブ、南相馬記者クラブ、宮城県政記者会、
東北電力記者会、東北専門記者会

【問合せ先】

国土交通省 東北地方整備局 小名浜港湾事務所

企画調整課 佐藤（さとう）、青木（あおき）TEL：0246-53-7142 FAX：0246-53-2912

相馬港報道関係者向け見学会 集合・解散場所及び行程

【集合・解散場所】相馬港 1号ふ頭 港湾業務艇発着場



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図(タイル)を複製したものである。(承認番号 平 29 東 第 33 号)

【当日の流れ(行程)】

行程	時間	
	第1便	第2便
集合：港湾業務艇発着場	9:25	14:10
港湾業務艇「おきかぜ」に乗船 《相馬港及びLNG船の海上視察(船上及び沖防波堤より)》	9:30~	14:15~
終了：港湾業務艇発着場	10:15	15:00

10:30より別途、JAPEX主催のLNG基地見学会が開催されます。

1便と2便の説明内容は同じですので、何れか参加可能な便を選択してください。

説明者：国土交通省東北地方整備局小名浜港湾事務所長 仙崎 達治



平成 29 年 12 月 8 日 (金) 正午必着でお願いします

F A X : 0 2 4 6 - 5 3 - 2 9 1 2

E - mail : pa.thr-i-onahama@mlit.go.jp

東北地方整備局 小名浜港湾事務所 企画調整課 行き

相馬港報道関係者向け見学会 申込書

参加を希望する便	何れかに○
第 1 便 (9:30 ~ 10:15)	
第 2 便 (14:15 ~ 15:00)	

所 属	氏 名	連絡先	E-mail

【留意事項】

- ・ 気象条件等により、見学内容が変更又は中止となる場合がございます。連絡先欄には、代表者の携帯電話など、常時連絡がとれる電話番号をご記入ください。
- ・ 見学会は、安全な服装（サドル・ハ化-ルはご遠慮ください）でお越しください。また、安全確保のため、現場ではライフジャケットとヘルメットを着用していただきます。（こちらで用意いたします）

東日本大震災以降の相馬港を取り巻く主な動き

H23. 3.11	東日本大震災発生（新地町：震度6強、相馬港津波痕跡高：9.82m）
H23. 8	相馬港復興会議にて相馬港復旧・復興方針策定
H23. 9	公共岸壁応急復旧完了
H23.12	相馬共同火力発電新地発電所 発電開始
H24. 2	5号ふ頭岸壁本格供用再開
H25. 1	大型荷役機械復旧《福島県》
H25.12	<u>相馬港港湾計画変更 現行の4号ふ頭が位置付けられる《福島県》</u>
H26. 3	3号ふ頭耐震強化岸壁（-12m）供用開始《整備局》
H26. 7	<u>4号ふ頭埋立護岸現地着手《福島県》</u>
H26.11	<u>相馬 LNG 基地（石油資源開発（株））現地着手</u>
H27. 1	全公共岸壁復旧完了・供用再開《福島県》
H27. 5	3号ふ頭岸壁（-10m）供用開始《福島県》
H27.10	<u>4号ふ頭前面航路・泊地 水深14mまでの増深に着手《整備局》</u>
	
	大型 LNG 船受入施設（浚渫）着工式
H28. 3	<u>4号ふ頭前面航路・泊地（-14m）増深完了《整備局》</u> 防波堤（沖）が概成（ケーソン据付完了）《整備局》
H28. 6	クルーズ船（にっぽん丸）寄港
H28. 7	<u>4号ふ頭埋立完了《福島県》</u>
H29. 4	米低温倉庫（JA 八ノライフ福島（株））竣工
H29. 5	鉄鋼流通加工工場（（株）アイ・テック）現地着手
H30. 3	防波堤（沖）復旧完了予定《整備局》 <u>相馬 LNG 基地（石油資源開発（株））操業開始予定</u>
H30. 5	鉄鋼流通加工工場（（株）アイ・テック）操業開始予定

下線は4号ふ頭 LNG 基地関連

沖防波堤、平成29年度末の完全復旧をめざす

震災で防波堤をはじめ岸壁・クレーンなど港湾施設が大きく被災。物流機能は一時停止。岸壁は復旧完了し船舶の入港が可能となっているが、沖防波堤は復旧途中で静穏性確保が課題となっているため、平成29年度末迄の完全復旧をめざす。

震災前 (H22年3月)
沖防波堤 (延長2,730m)

震災後 (H23年9月)
9割以上が被災
ケーソン全181箇中
177箇が被災

現在 (H29年3月)
H28.3 全ケーソン据付完了
平成29年度中の上部工・消波工の完全復旧を目指す

岸壁が倒壊・陥没
臨港道路へ瓦礫が散乱
クレーンが倒壊

ケーソン製作
被災ケーソンの再利用

相馬共同火力発電(株)は平成23年12月19日まで運転停止

大型LNG船受入施設の整備

大型LNG船が満載、かつ安全に入港するため、LNG船用棧橋の整備と合わせ航路・泊地の水深を14mまで掘り下げ。大型LNG船の効率的輸送でLNGの安定的な供給を実現。

H29.12 大型LNG第1船入港

航路・泊地 (-10m -14m)
・平成28年3月整備完了

25ha
120万m³

LNG船用棧橋 (石油資源開発(株)整備)
・平成29年中に整備完了予定

LNG火力発電所
LNG基地

護岸 (福島県整備)
・平成27年整備完了

超大型のポンプ浚渫船を投入 (国内最大級の8,000馬力)

進出企業概要

LNG 受入基地

石油資源開発(株)が、東北太平洋側の LNG 受入拠点として、LNG 受入基地を建設中。H30.3 の操業開始を目指している。



天然ガス火力発電所

福島ガス発電(株)が、4号ふ頭に発電効率の高い発電方式による天然ガス発電所を建設中。H32.3の営業運転開始を目指している。



米低温倉庫

J A パールライン福島(株)が、福島県産米を沖縄へ移出するための米低温倉庫を2号ふ頭背後に建設。H29.4竣工。



鉄鋼流通加工工場

(株)アイ・テック(本社：静岡市)が、相馬港で輸入・加工した製品を東北各地に輸送するための拠点工場を1号ふ頭背後に建設中。H30.5の操業開始を目指す。

